

# 豊田小学校だより

令和3年3月3日

校長 大瀧 剛

## 本年度の学校評価について <①>

令和2年度も残すところあと1ヵ月となりました。この一年、保護者のみなさま、そして地域のみなさまには、本校教育活動並びに本年度は特にコロナ禍での学校生活に、ご理解とご協力をいただき、本当にありがとうございました。

今週は3日間の日程をとり、“6年生を送る会・なかよし集会”が行われています。各学年が6年生に向けて、歌やダンス、呼びかけなど披露し、かわりに6年生は、歌やメッセージなどでお礼の気持ちを伝えています。昨日は、『6年生ありがとう』のくす玉が割られると、すぐさま「お〜」「すげ〜」と声があがり、微笑ましい時間を見せてもらいました。在校生の「6年生のみなさん、これまでありがとうございました！ 中学校に行っても、がんばってください！」を聞いているとまるで卒業式のように、最後に手紙を渡し合う姿からも、大切な時間を使って準備したであろうことが伝わってきます。6年生のみなさん、小学校生活もあとわずかとなりました。どうぞ大切に時間を使ってくださいね。

さて、先日は、学校評議委員、公民館長、幼稚園長等の評価委員の皆様にお集まりいただき、今年度の『学校関係者評価委員会』を実施いたしました。学校からは、「学力の向上と豊かな心の育成」「子どもが安心して生活できる学校づくり」「開かれた学校づくり」の3つの柱をもとに、4月から取り組んできた様々な内容について、アンケートや学力調査の結果等もお話しし、評価委員の皆様からご意見をいただきました。



## 評価委員の皆様からいただいたご意見

- この学校の子どもはよく挨拶してくれると感じる。今後も挨拶できる子どもを育てることは大切である。
- 学校の取組により、子どもの学力や学級満足度があがっている。保護者や児童アンケートをみても概ね満足できるのではないか。
- QUの結果で学級満足群の数字があがっているのはよい。各学年の満足できていない子どもたちに視点を当てた取組をお願いしたい。
- 今年度、幼小合同で引き渡し訓練を実施できたことは成果だと思う。
- コロナ禍で自由な交流活動は行えなかったが、年長児が6年生の体育のなわとびをじかに見せてもらい、よい刺激をもらった。幼稚園の土台をわかってもらい、小学校につなげるようにしてもらおうとよい。
- コロナ禍ではあるが、自己肯定感を高める取組を続けてほしい。小一プロブレムの問題もあるので、幼小の交流の機会を大切にしてほしい。
- 読書はなかなか定着しない現状がある。親としても、何か読書のきっかけを作り出すようなことができればよいと思う。
- タブレットやパソコンを活用する学習と、書くことを大切に学習の双方を大切にしてほしい。
- 学力向上や学級づくりの取組は、これからも丁寧に取り組んでいただきたい。

いただいたご意見を、次年度の取組につなげていきたいと思っております。裏面、本年度の学校評価について<②>もご覧ください。